



カジカの学君

Vol.28

発行元 特定非営利活動法人 加治川ネット21
 〒957-0345 新潟県新発田市小戸886-1 TEL0254-31-4111 FAX31-4088
 ホームページ URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

会費振込先 郵便局振替口座 00500-5-35812 株式会社第四銀行 新発田東支店 普通口座1196959

ぼくらは加治川探検隊!! 開催

毎年実施している夏休み企画ですが、今年は、加治川の上流にある滝谷森林公園を舞台に、体験型の環境学習を行います。生き物や草花の不思議を専門家がわかりやすく説明します。どうぞ、ご参加ください。

～ 主な活動内容 ～

生き物探検

水辺の生物をつかまえて水質を調べよう。
 魚のつかみ取りも予定しています。

植物探検

どんな植物があるのかな？
 水辺でアートで使う植物を探そう。

水辺でアート

探検で見つけた植物を押し花にしたり、
 竹を使って水鉄砲を作ったり、拾った石に絵を描いたり、
 すきなことをしよう



記

開催日	平成17年8月7日(日)
時間	10:00～14:00予定(9:30受付) <small>小雨場合は、五十公野公園探検隊!!に変更します。 変更・中止の際は、当日8時までに主催者から直接電話で連絡します。</small>
場所	新発田市滝谷森林公園 tel.0254-28-2713
参加費	大人1000円・こども500円 当日頂きます。 <small>(保険加入、資料、教材、トン汁代など)</small>
受付期間	7月11日(月)～7月29日(金) <small>保険加入のため、氏名、住所、電話番号を記入しメールかFAXで申し込んで下さい。</small>
服装	サンダル・水着・着替え・タオル
持参品	弁当、水筒、帽子、濡れてもいい履き物、筆記用具等。
参加条件	小学校以上(保護者同伴) 先着親子25組(50人)

「みどりの日」自然環境功労者 環境大臣表彰

平成17年4月29日(金)午前11時から「東京厚生年金会館」で、「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰式が行われました。これは「みどりの日」にちなみ、自然環境の保全に関して顕著な功績があった者に対しその功績をたたえるため、自然環境功労者として、環境大臣が表彰を行うものです。

今年で7回目で、今回の受賞者は個人団体を合わせて「42」名が受賞しました。環境大臣表彰ということで、小池百合子環境大臣からの表彰と思っていたのですが、大臣は海外からの要人の案内という事で欠席。代理で能勢和子政務官(大臣、副大臣、政務官で3のポスト)から表彰状を受けました。

平成14年には新潟県の環境賞を受賞、今回は国からの表彰です。これらは会員皆様の協力・サポートがあって表彰されたものです。会員の皆様に感謝申し上げます。今後も環境保全に頑張っていこうと思っておりますので、今後ともご協力・サポートを宜しくお願い致します。



新発田市・新発田地域振興局、表敬訪問

「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰の報告のため、若月理事長と小柳副理事長が5月12日(木)、新発田市役所、新発田地域振興局を訪問しました。

新発田市長は、「今後も自然環境を取り入れたまちづくりに尽力してください。また、この成果を市民と喜びを分かち合うために市役所ホールに賞状を飾りたいので、しばらく貸してください」と言っていました。



新発田地域振興局への訪問では、環境センター長と新発田地域振興局 企画振興部長が同席しました。

報告の席で、「地域での少子高齢化の波は急速化して、地域環境や文化を継承していくことがこの先不安な面もある現状です。加治川ネットの取組みは、新発田地域密着型の環境教育を実践していることが素晴らしい」と皆様からお褒めをいただきました。

今後も地域密着型の環境学習を基盤として発信していきたいものです。



協力：新発田地域振興局(写真提供)・新発田市(写真提供)

環境大臣表彰の賞状を展示

この度、「みどりの日」自然環境功労者表彰で自然ふれあい部門の環境大臣表彰を受賞した事を記念して、片山 新発田市長のご好意により新発田市1階の中央ホールに表彰状と加治川ネット21の活動紹介パネルが展示されました。



～平成17年度 「みどりの日」 自然環境功労者～ 環境大臣表彰祝賀会

6月18日(土)、加治川ネット21の環境大臣表彰を記念する祝賀会が開催され、会員や関係団体、行政機関など、約80名が参加しました。

開会にあたり、若月理事長から「今回の受賞は、私たちの活動を支えてくださった皆様のもでもあります。これからも、地域に根ざした活動を行っていきますので変わらぬご支援とご協力をお願いします」と挨拶がありました。

来賓を代表して、新発田市長(代理：藤田収入役)、石川県議会議員、佐藤県議会議員からご挨拶をいただいた後、新潟県新発田地域振興局の山賀局長の音頭で乾杯となりました。



賑やかな宴の中、加治川ネット21の活動や参加団体なども紹介され、田貝ホテルの会からは、6月25日(土)に開催される「蛍の灯りで夕暮れの散歩ツアー」が紹介されました。

さて、この度の祝賀会には、本当に大勢の皆様からお出でいただき感謝しています。また、C.Wニコル様、加治川を愛する会のたかたかし様からお祝いの電報を、(財)こしじ水と緑の会様、五泉トゲソの会様、北越緑化(株)様からはお酒をいただきました。テーブルには菊水酒造(株)様の協力で実現した「イバラトミヨ」というお酒が並び、参加者への記念品として木村

修様、八木敏之様が描いた絵はがきなども配られました。

長野県からかけつけてくださった宮坂先生(当会顧問、東京工業大学名誉教授、前新発田市収入役)をはじめ、遠くからお出でいただいた方々との歓談も本当に楽しくて、嬉しいものでした。ここに掲載されている写真から、会場の雰囲気を感じ取っていただけたら嬉しいです。

加治川ネット21では、今回の受賞と皆様からの応援を励みに、ふるさとの環境を守り育てていくため、様々な活動に取り組んでいきます。皆様、ご協力をお願いします!



～新聞各社に紹介される～

5月 3日付	読売新聞
5月 5日付	朝日新聞
5月 6日付	建設通信新聞
5月10日付	新潟日報
6月 1日付	新潟日報ミック
7月15日付	広報新発田



～川は森と海をつなぐ回廊～

4月4日、新発田ロータリークラブの定例会で当会の藤田理事が環境講演を行いました。

これは、全4回のシリーズとして加治川ネット21が講師を務めるもので、持ち時間は概ね30分。当日、会場には70名近い人々が集まっていました。

宮島石油の杉原氏から講師のプロフィールが紹介され、今回の講演をととても楽しみにしていたとのご声援もいただきました。

藤田理事は、スライドを見せながら、子どもたちに行っている環境学習、新発田市周辺の環境を中心に、海での漁獲量の減少や加治川のサクラマスの減少、ブラックバス等の外来種による生態系被害などを話しました。

サケ、マス、カジカなど多くの生き物は、海と川の上流を行き来して生活しています。

そして、木から落ちた虫は魚のエサとなり、落ち葉が分解された栄養たっぷりの水は川を流れて海へと向かいます。また、水中の小さな生き物たちの働きによって水はきれいに保たれます。

このように、自然界では川を使って大きな物質循環が行われ、どんなに小さな生き物でもそれぞれが様々な役目を担っているのです。

環境学習は、理科や社会などにも繋がっています。総合学習にこだわらずに、いつでも加治川ネット21を利用していただければ嬉しいです。また、人と人との繋がりはとても心強いものがあります。皆様からのご協力を大きな力に変え、今後も環境活動に取り組んでいきたいと思っております。



～加治川の川について～

4月18日、当会の田代理事が環境学習会の講師を務めました。

司会者から講師のプロフィールが紹介された後、田代理事の講演に入り、河川法での1級河川と2級河川の違い、河と川の違い、河川の名称が自然条件から見た土地条件や人々が川とどのようにつき合ってきたかで決められること、信濃川の名称の由来は長野県から来ていることなどが話されました。

また、現代の雨量計は獅子落とし式雨量計が使われていて、決められた量で落ちてスイッチが入りカウントする方式になっており、30mm/時間では大雨と判断されること、電磁式でありデータは国土交通省で管理されていることなどの話がありました。

加治川の土木施設の話として、頭首工とは主に農業施設を目的としたものを指し、堰は工業等に使用されるものであること、加治川の場合大槻地区第一頭首工、西名柄の第二頭首工などがあり、農業用の施設が多いとの説明がありました。

最後に、流域の人々の願いを叶えるべく土木施設も、水循環だけを考えると充分ではあるが、生物の生態系を考えると阻害要因として作られているケースが多く、現在では、スリッド式(中抜け)ダムや鋼製枠式ダムがあり、国土交通省の施策も生物環境に配慮してきた事などの話もありました。

今回の講演で、当たり前にならされている土木施設の用途や用語解説などの基礎的事、近年では、自然再生推進事業を基礎とし、国が進める生物多様性国家戦略など外来生物への環境配慮など、聴講された皆さんにわかっていただけではないでしょうか。



～加治川周辺と五十公野丘陵の植物生態～

4月23日は、植木拓也会員が担当しました。

はじめに五十公野丘陵が江戸時代頃から松が植樹され松林化されて来たことや、現在でも松林維持のために下草や低木が伐採されていることが話されました。続いて、新潟大学の学生が、平成10年から12年にかけて植物調査を実施したところ、672種の植物が確認されていると紹介があり、中でも「春の七草ハコベやマルバマンサクはいまが見頃です。早めに行かないと全部切られて無くなってしまいますよ。」と呼び掛けていました。

昨年、岡田の天然プールで実施した植物調査では、51種の植生が確認され、その内在来種が74.5%、明治以降に入ってきた外来種が全体の25%でしたが、新潟大学の五十公野丘陵植物調査では、672種のうち内在来種が92.3%、外来種が7.7%だったそうです。このことから、洪水などで土壌が攪乱されたところには、外来種が植生しやすく、五十公野公園では、これまで大きな地形的変化が無く植生にも変化が少なかったことがわかります。まとめとして、「植物の多様性と環境は、環境に適応した植物が入り込んで植物自身が環境をつくる。新しく作った道端に咲いている草花の多くは外来種である」と話されました。



～過去の常識・今の非常識～

5月16日、で第4回目の環境講演が行われました。

加治川ネット21の定期講話も今回が最終回です。若月理事長は、改めて加治川ネット21の活動を紹介しながら、「自分たちも活動を楽しむからこそ、長く続けていくことができる。人々に夢を与える活動だから広がっていく」という活動姿勢を訴えました。

また、加治川流域の動植物マップが記載された新しいパンフレットや「私の加治川」の写真募集協賛のお願いなども配布しました。パンフレットの活用と写真募集の活動に対する支援を呼びかけたところ、早速、活動に賛同くださる方もいて大変心強く思います。

さて、これまでの講話をとおして多くの方々に当会の活動を知っていただくことができました。



加治川ネット21の活動 2005年4月1日～5月31日

水辺の事業

- 4月 2日 こしじ水と緑の会・朝日酒造自然保護助成基金」助成授与式
- 4月 4日 第1回新発田ロータリークラブ環境学習会
- 4月 7日 定例会開催
- 4月 9日 加治川堤クリーン&ウォーク開催
- 4月17日 五十公野植物観察会・迎春祭「加治川流域のいきもの大集合」
- 4月18日 第2回新発田ロータリークラブ環境学習会
- 4月23日 イバラトミヨ追跡調査：太高地区、久保地区
- 4月24日 加治川の桜堤育樹勉強会：開催

4月25日 活動報告 第3回新発田ロータリークラブ環境学習会

4月26日 菊水酒造「日本酒文化研究所」訪問

4月29日 環境大臣賞授賞式：東京

5月の事業

5月08日 新生新発田市合併記念小学校対抗ミニヨットレース

5月12日 理事会・環境大臣表彰を報告：新発田市長、新発田地域振興局長

5月16日 第4回新発田ロータリークラブ環境学習会

5月22日 ～新発田川探訪～ 知られざる町の魅力を探して

～新発田川探訪「まちうら散策」～
知られざる町の魅力を探して！

5月22日(日)晴天に恵まれ、37名が参加しました。

参加者には市内出身若しくは在住という方が殆どでしたが、実際に歩いてみると城下の面影を色濃く残した小路や昭和30年代以前の建物と思しき風情ある建物などが点在し、要所要所でこれまで気づかなかった街の魅力に驚きの声が上がりました。

また、新発田川沿いを歩いていると所々で川底には昔の敷石を、護岸の下にはかつての木杭を見る事ができます。そして、かつての清らかな水の流れを忍ばせる川端も見ることができました。アンケートの結果でも、多くの方々がきれいな新発田川の再生を望んでいます。私たちにできる事は何か、もう一度考えていく必要があるのではないのでしょうか。

さて、講師を務めた鈴木秋彦氏提供の資料を片手に城下町の面影を探しながら、カトリック教会の中を見学したり、お菓子屋の寿堂さんや画材屋の萬盛社さんなどで足を止めてお話を伺ったりして、無事、12時には昼食会場の料亭「高砂」さんへ到着することができました。高砂さんの美味しいお弁当と寿堂さんの可愛らしいお菓子をいただいて14時には解散。たくさんの方々から、また参加したいといった声もいただきました。



		
裁判所にある「布団掛けの松」大火の祭には布団をかけて守られたとの言い伝えがある。	市役所裏の旧「八軒町」。ご城下の地図にも出ている。昔、周辺は乗馬の練習場でした。	カトリック教会。外部はもちろん、内部にも工夫が凝らされて、とてもすてきでした。
		
新発田川の川底はかつての石張りが見えています。護岸の木杭が残っている所もあります。	新発田川沿いにある古い建物。昔ながらの細かい細工が施された意匠も良い雰囲気。	食後のデザートには寿堂さんの和菓子。涼しげでかわいい金魚鉢と上生菓子(菖蒲)

【今回の散策コース】

地域交流センター駐車場 == 裁判所『ふとん掛けの松』 == カトリック教会 ==
 掛蔵・新道 == 大倉喜八郎生誕の地 == 新発田川 == 萬盛社 == 高砂『昼食』

～太齋地区推進協議会 総会～
「環境配慮の学習会」

6月9日(木) 水土里ネット豊浦郷主催による「県営ほ場整備事業太齋地区推進協議会」総会において環境配慮の学習会が開催されました。

総会に先立ち、05年春に竣工したばかりのフォアン Pond(ため池)を視察しました。ため池は、約100m×40mくらいの非常に大きいモノで深さも60cm位から90cmにすり鉢状に作られているとのことでした。池にはコカナダモがびっしりと繁茂、流れが少ないところではアオミドロも張り付いていました。

目をじっと懲らしてみるとアブラハヤの稚魚らしき群れが泳ぐ姿を見ることができました。参加者の中には、「鯉がいた！あそこにも魚だ！」と口々に魚影を見ては、歓喜の声をあげていました。



総会では、初めに新発田地域振興局農村整備部ほ場係の鈴木さんから、当地においての保全計画に基づいての一部、環境保全型ブロックを取り入れた環境配慮工法などが説明されました。

続いて当会若月理事長が「加治川ネット21の環境活動」について、会の紹介、04年に行われた活動紹介、05年の事業計画と今後の課題などを話しました。



続いて藤田理事が「太齋、久保のイバラトミヨ」と題して、イバラトミヨの当地での特性や特徴、変革する農業環境でイバラトミヨが絶滅の危機に瀕していることなどを話しました。最後に今後の基盤整備(水路部)でのイバラトミヨ存続するために必要なこととして「底の無いコンクリート製品を使って欲しい。うまく泳げない魚種なので、勾配を緩くして出来れば所々に葦などの生えた水路にして欲しい」と訴えました。

- 質疑応答では、このような意見がでました -

- ・水路の維持管理はどのようにするのか？
- ・この魚を天然記念物にしてはどうか？
- ・現在でも町の人が無断で土地に入り、畑を荒らしていく。他の人の立ち入りは疑問だ。

今年度から基盤整備が本格着工され、イバラトミヨの生息地の存続が危ぶまれますが、地元の人とこのような話し合いが出来、一定の理解が得られたことは、地元の宝として「イバラトミヨ」の存在を再認識してもらえたことでしょう。



加治川堤クリーン&ウォーク

4月9日、加治川を愛する会主催の「加治川堤クリーン&ウォーク」が加治川堤約10kmを新発田市・聖籠町・紫雲寺町・加治川村を各出発点としてさくら大橋集合という形で清掃されました。

この事業は今回が第9回目です。

今年は、昨年までの暖冬少雪とうって変わって19年ぶりの豪雪となりさくらの蕾がかたく開花までは、まだまだの状態でした。早春の中、ちょっと風はつめたかったのですが、参加した約500名は、春風を感じながら爽快な汗を流していました。当会からは、若月理事長をはじめ7名の参加がありました。

ゴミの多くは、空き缶やたばこの吸い殻、農業用ビニール用品、古タイヤ、などが多く占め軽トラック15台分集められました。昨年の3分の1の量ということでゴミの適正な処理が進んでいるのかな?と思いました。大変喜ばしいことです。



レセプションでは、主催団体のたかたかしさんから参加の皆さんへの謝辞が述べられ、東豊小学校の金管バンド部(04年関東大会「金賞」受賞)のすばらしい演奏がありました。レセプションの最後に当会から合併記念事業「わたしの加治川」写真展への出展募集の呼びかけと当月24日に開催される「加治川の桜生育調査」のイベント案内を紹介させていただきました。

この事業を運営をしていただきました「加治川を愛する会」のみなさんご苦労様でした。

迎春祭「加治川流域のいきもの大集合」

4月17日(日)加治川治水公園(紫雲寺町)で行われた迎春祭には、新発田地域振興局や加治川を愛する会と一緒に加治川ネット21もブースを設置しました。

ブース内には、イバラトミヨやホトケドジョウなどの絶滅危惧種やアブラハヤ、タイリクバラタナゴなど加治川流域の生き物を紹介しました。また、子どもたちが描いたカラフルな生き物たちもブース内を彩り、楽しそうに絵を描く子どもたちの姿が印象的でした。



あいにくの曇り空も午後には晴れ間が広がり、冷たい川風が吹く広場内も大勢の人でにぎわいました。



加治川ネット21のブースにもたくさんの方が訪れ、新聞報道などの効果か、結構多くの方々が「イバラトミヨの名前を聞いたことがある」といっていました。ご年配の方々からは、「昔はよく捕まえたよ」「昔はもう少し大きかったのにね」といったお話も聞かせていただきました。なんと、「紫雲寺の今はゴルフ場になっている池にもまだいるんじゃないかな・・・」といった声までありました。ホントかな?

今回のイベントで、また、たくさんの方々に加治川ネット21の名前を知っていただけたのではないのでしょうか。

第4回 五十公野植物観察会

平成17年4月17日(日)午前9時から「いじみの植物の会」と「加治川ネット21」主催の「第4回五十公野植物観察会」が行われました。参加したのは大人33人、子供4人、五十公野の植物に興味・関心のある老若男女が集まりました。「春の七草ってなあに?」、今回の五十公野観察会で七草のうち何種類見つけることができるかをテーマに、五十公野公園升潟の周りを散策しました。

桜は満開には少し早く、三分か五分咲でしたが、散策しながら、いじみの植物の会の専門家からこれは という植物で の特徴があると細かい説明までありました。

そんな中、水芭蕉も五十公野にあり、尾瀬や中条町の地本まで行かなくても見られることが分かり、嬉しかったです。さて、私は春の七草を何種類見つけることが出来たでしょうか?。答えは・・・「見つけることが出来ませんでした」。残念でしたが、春の半日を草花を探し、見つける、のんびりした時間を過ごせ、心身をリフレッシュでき、とても有意義でした。



久保地区イバラトミヨ調査

4月23日(土)午前9時、集合場所の虹の里交流館には11名のメンバーが集まりました。

最初の調査は久保集落中頃にある神社前の土堀水路で行われました。水路にはミクリヤコカナダモと一緒に淡水モズクが川面に揺れ、透明な川水をとおして川底の砂までよく見えました。この調査地点では、イバラトミヨ、ホトケドジョウ、ツチガエルなどが捕まりました。

次は、もう少し上流に場所を移すことにして移動を開始。なんと、移動の途中にカワセミを発見!残念ながら、写真に収めることは出来ませんでした。きれいな緑色の羽がとても印象的でした。

2ヶ所目の調査は、天辻川からの川水が流入するすぐ上流で行われましたが、源流部の湧き水しか流れ込まないこの場所では、たくさんのイバラトミヨとホトケドジョウ、コオイムシ、アカハライモリなどが捕まりました。「本当に子(卵)を背負ったコオイムシを初めて見た!」と喜ぶ参加者のうれしそうな顔が忘れられません。また、目視ではイバラトミヨの営巣を確認することは出来ませんでした。イバラトミヨと一緒にイバラトミヨの卵が網に入り、営巣が行われている事実も確認することができました。

ちょうど調査地点に地元の方がいて、「昔はこの水路周辺にヨシが茂っていて、捕まえたイシャジャの卵を食べたものだよ」とのお話も聞きました。この久保集落周辺でも間もなくほ場整備事業が具体化します。この環境が地域にとってどのような意味を持つのか、集落の方々はもちろん、加治川流域全体の課題として取り組んでいく必要があるのではないのでしょうか。

また来年も、ここでイバラトミヨの営巣と産卵が見られることを願っています。



新たに入会された方を紹介します。

田邊昌邦さん (新発田市) 05年6月現在 個人105名 団体27社

加治川の桜堤 育樹勉強会

4月24日(日)に開催された加治川の桜堤育樹勉強会には当会の会員など8名が参加しました。加治川堤は川風が冷たいためちょうど満開で、春風も暖かい桜堤沿いにはお花見をする家族連れの姿がありました。



第2頭首工を起点に、3台の車に分乗して調査を開始。まずは、桜大橋に向かって車を走らせました。病害虫による被害の大きい樹木を見つけるたびに車を降りては、桜の生育状況や病害虫の程度を確認し、その処置方法を会員講師の田中さんに学びながら、実践を行いました。

目立って見られる病気はテングス病で、後から植樹された若木のほとんどで見ることが出来ました。この病気は、サクラ類のなかでも圧倒的にソメイヨシノに発生しやすく、小枝が密生し、花を咲かせずに枝ばかりが伸びる奇病のため、すぐに見つけることが出来ます。また、テングス病は感染する病気なので、見つけたら切り取って焼却しなければならないといわれていますが、今回の勉強会では、病状のひどい枝を切除して、切断部に保護材を塗布するところまで行いました。



また、土質の確認も行いました。生育不良の大きな原因として、川風が強い一部では、酸性が強い、一部では、砂地で水捌けが良すぎる、一部では、土質が改良されていない、施肥の不足、病害虫の管理不足などがあげられました。また、桜が根を張りやすいように、表土をほくしてあげることも生育の促進に効果が上がるかもしれないとのことでした。全ての桜を管理することは難しいですが、今回のように病害虫による影響が大きいものだけをピックアップしながら、市民の手で少しずつ管理できるようにしていきたいですね。

新生新発田市合併記念

新発田市立小学校対抗ミニヨットレース

5月8日(日)、加治川治水公園で新発田青年会議所と新発田地域調整振興会議の主催で新生新発田市の市立小学校26校対抗ミニヨットレースが開催されました。

加治川ネット21は、ミニヨットレーススタート前の余興としての「加治川ものしりクイズ」を担当し、新生新発田市の身近な環境に関係する12の問題を作成して



真剣にクイズを説く参加者



、約1kmのスタート地点まで、200m間隔にクイズを配置しました。道すがら子供たちと先生、保護者の方々がにぎやかにクイズを解いていました。

一位は佐々木小学校



「加治川流域の川と生きものMAP」を利用した総合

6月23日(木) 新発田市立米倉小学校4年生の総合学習を担当しました。今回は、加治川ネット21が作成した「加治川流域の川と生きものMAP」を総合学習の副読本として利用する初めての授業でした。

米倉小学校の総合学習では、「加治川調査隊TY4～ふるさとの加治川をもっともっと知ろう～」というキャッチフレーズを掲げ、事前に児童らが自ら学習し、疑問と思ったことを『加治川博士にインタビューしよう!』と、若月理事長をゲストティーチャーに迎え、インタビューするという形式で始まりました。



～子どもたちからはいろんな質問が飛び出しました。～

魚について

加治川には、どんな魚がいるのか？

食べられる魚はいるのか？

魚はたくさんいるの？

加治川について

加治川はどこから始まっているの？

どこの浜まで流れているの？

どんな川と繋がっているの？

上流には滝があるの？

加治川の流れは速いの？深さは？量は多いのかな？



児童たちと理事長との質疑と応答が一通り終わり、今日の”おさらい”として「加治川の流域の川と生きものMAP」リーフレットを活用して、自分たちの学校の場所を確認してまわりに生息する生きものを知りました。朝、理事長が加治川周辺から捕まえてきた生きものたちとリーフレットを見比べながら、加治川の水質を学習しました。結果、加治川の生物は、水質階級 “きれいな水” にすむ生きものだけでした。

今回、リーフレットを使っの初めての授業でしたが、児童たちの住んでいる地区と加治川の関係がわかると同時に、生きもの生息環境などわかりやすく、担任の先生からも良くできていると好評でした。



「加治川流域の川と生きものMAP」は、加治川流域に生息する水生生物と植物を紹介したのリーフレットです。当会では、学校や環境学習のご利用目的に限り『無償』で配布致します。必要部数を当会事務局までお知らせください。

また、他の目的でも請求に関しましては1枚/100円で販売させていただきます。

「私の加治川」写真を募集しています。

募集要項 この事業は、地域の可能性を見つけるものです。「私と加治川」というカメラアイを大切に考え、撮影の年代は問いません。加治川流域における自然や文化を対象とします。

写真サイズ プリントはキャピネ以上とします。なお、写真にはコメントを付けてご応募ください。データ画像の場合は1MB程度(5MBまで応募可能)ファイル形式はJPEG、TIFF、BMPデータ画像は、大きすぎると受け取ることができません。ご注意ください。

作品賞 大賞 1本(50,000円)
準大賞 2本(20,000円)
優秀作品賞 40本(新発田の物産)
審査は各分野で構成した審査員で行います。



応募先 「私の加治川」実行委員会
〒957-0053 新発田市中央町3丁目13-3
新発田市地域交流センター(財)新発田市まちづくり振興公社)内
〒ジカゲ ータ受付: d-kajikawa@van-rai.net
携帯電話カゲ ータ受付: m-kajikawa@van-rai.net



お問い合わせ 「私の加治川」実行委員会
電話: 090-3642-8708 担当: 小柳、上村

主催 「私の加治川」実行委員会、NPO法人加治川ネット21

募集期間 平成17年**5月1日** から 平成18年**3月31日**

前期(H17.5.1~H17.9.30)・後期(H17.10.1~H18.3.31)終了時点で展示会を開催予定

イバラトミヨの自然画葉書 販売開始!!

このたび「イバラトミヨ」をイラストレーター木村修氏(聖籠町出身)の御厚意により書いていただき、販売することになりました。

購入を希望される方は、販売店若しくは、担当者までお問い合わせください。

【価格】 150円/1枚(店頭販売価格)

【取り扱い店】 萬盛社(新発田市)ビュー福島潟(旧豊栄市)
加治川ネット21事務局(新発田市)



編集後記

今年には早くも梅雨で、四国地方では早くも節水制限が出ている所があるそうです。昨年の新潟は、7月の集中豪雨で川が氾濫しました。今年も雨が降り出し、うねり気をつけて、この度は思いがけず、環境大臣表彰をいけました。本当に喜ばしいことと、当会の環境活動に對して、地域の行政の方々の協力や応援の意を、感謝いたします。

報告文協力
渡馬 利道
相馬 令治
篠田 令子
遠藤 和吉
田代 繁吉
肥田 野和
篠田 木子
遠藤 木子
若月 学吉
新発田市学芸振興局
写真協力
若月 学吉
田代 繁吉
肥田 野和
篠田 木子
遠藤 木子
新発田市学芸振興局

会報編集委員会